



## 臨床研究に関する情報の公開

作成日:2024/01/14

研究課題名	高度近視緑内障に対する緑内障術後の視機能変化
研究の対象	2015年1月～2024年3月に当院で緑内障手術を施行された開放隅角緑内障
研究目的・方法	<p>緑内障の治療はまず薬物治療が行われるが、薬物によっても眼圧がコントロールできない場合や、視野欠損が進行する場合には手術によって眼圧を下降させることが必要となる。ただし、現在の眼圧下降手術は合併症は少ないが眼圧下降効果が少ないもの（ローリスク、ローリターン）、眼圧下降効果は大きいが合併症が多いもの（ハイリスク、ハイリターン）に二分され、ローリスク、ハイリターンの理想的な手術がないのが現実である。よって、症例毎にリスク、眼圧下降のどちらがより重要視されるかにより術式を選択する。</p> <p>高度近視を合併する緑内障は本邦に多く、特徴として、1) 壮年期ですでに視野障害が進行している、2) 視力障害に直結する部位に早期より緑内障性障害が生じやすいことがある。緑内障手術では周術期に低眼圧または高眼圧の眼圧変動を生じることが多く、そのために視野障害の進行や視力低下を生じる危険性が指摘されているが、特に上記に挙げた特徴をもつ高度近視緑内障の術後視機能に緑内障手術がどのような影響を与えるかについての報告は限られている。</p> <p>今回、高度近視緑内障に対する緑内障術後の視力、視野の経過の実態を明らかにし、視機能低下についての関連因子について検討することとした。</p> <p>研究期間：許可日～2025年3月31日</p>
研究に用いる試料・情報の種類	情報：病歴、手術歴、年齢、性別、視力、屈折度数、眼圧、角膜厚、眼軸長 視野、光干渉断層計画像、前眼部光干渉断層計画像
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先 〒530-8480 大阪市北区扇町 2-4-20 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院 眼科主任部長 田辺晶代（研究責任者） 電話：06-6312-1221、FAX：06-6312-8867</p>